

## 編 集 後 記

昨春より臨床神経学の編集委員を拝命し、約1年間に再投稿も含めて40編以上の投稿を拝見する機会を得た。論文を投稿するということを考えてみると、症例報告にしる、原著にしる、公開することで多くの人に「情報」を提供するというのである。情報といえば、最近、恩師の御息が書かれた「国際メディア情報戦」という本を読んだ。国際紛争という私からは実感できないような大きな舞台での話ではあるが、国際関係の中で何が正しいかが混沌とする中で、いかに情報をメディアに訴えて世論を味方にしていくかが次々と展開され、通勤電車の中で乗り越えそうになるくらい夢中になって読ませてもらった。メディアにうまく訴えるといっても、決して真実を曲げた内容を伝えることがあってはならないし、そのような虚実を伝えることは必ず、後でかえって取り返しのつかないことになること、そして、一番大切なのは、真実をいかに最もキーとなる場所に伝えることであるかが実感された。

学会発表や論文投稿はこれまでの情報を吟味して、新たに情報を提供することである。私が最初に症例報告をしていた時期には、情報としての過去の報告を探すのは、なみなみならぬ努力がいった。Index Medicus などと言っても

今の若い医師には見たこともない人も多いことであろう。コンピューターの前に座れば関連する文献はあっという間に100個以上見つかり、その原本もPDFで瞬間的に手に入る。これだけの「情報」をいかに使いこなして自分が新しく発見したこと、経験したことを理論づけていくか、あふれかえる膨大な情報の中から、いかに本物を選別すると同時に、自分の情報を広く的確に伝えることを考えながら、論文投稿する必要がある。最近の情報は使い捨て、といえるくらい早く回転しているが、発想を転換させるような、時代の節目となるような論文は、いつまでも引用されている大切な情報となる。

臨床神経学は邦文の神経内科の中では最も頂点に位置する学会誌であり、本誌に掲載されることは、その情報を広く的確に伝えることになる。是非、投稿していただき、多くの批判を浴びながら、貴重な情報を提供していただきたい。査読の先生方は忙しい中、教育的で、発信されようとした情報に対して貴重なコメントを提供してくれている。耳の痛いコメントもあるであろうが、必ず勉強になること間違いなしである。

(星野 晴彦)

## 〈編 集 委 員〉

編集委員長 鈴木 則宏      編集副委員長 河村 満  
編集委員 荒木 信夫   飯塚 高浩   池田 昭夫   亀井 聡  
瀧山 嘉久   西野 一三   野村 恭一   星野 晴彦  
編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘   高尾 昌樹   森 秀生

|         |                               |             |              |
|---------|-------------------------------|-------------|--------------|
| 「臨床神経学」 | 第54巻 第5号                      | 平成26年5月1日発行 |              |
| 編 集 者   | 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル        |             | 一般社団法人日本神経学会 |
| 発 行 者   | 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル        |             | 水 澤 英 洋      |
| 印 刷 所   | 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 |             | 中西印刷株式会社     |

発 行 所      〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>